

グループ名 ・代表者名	FoE Japan 満田 夏花	助成金額	50万円
連絡先など	Mail : kanna.mitsuta@nifty.com TEL : 03-6909-5983 (FoE Japan) 0120-966-544 (「手のひらサポート」資料請求)		
助成のテーマ	福島原発事故の健康被害に関する相談窓口および被ばく影響情報プラットフォームの立ち上げ		

#### 【調査研究・研修の概要】

- ・福島県県民健康調査でも、多くの子どもたちが甲状腺がんと診断されています。2017年2月までに福島県が公表した資料によれば、事故当時福島県に在住した18歳以下の子どもたちで、甲状腺がん悪性または悪性疑いと診断された子どもたちの数は184人。リンパ節転移や遠隔転移、再発など、深刻な症例が報告されています。政府は、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響による健康被害は起きないとしており、包括的な支援策が十分にとられていない状況です。
- ・当初、甲状腺がんなどの健康問題に関する「相談窓口の設置」を念頭に高木基金に助成金申請を行いました。その後、「治療費や通院費などの給付を含めた経済的支援を行うための「基金」の設置が必要であるとの結論にいたりました。
- ・2016年7月、「3・11甲状腺がん子ども基金」が正式に発足しました。甲状腺がんの子ども等への支援および原発事故による健康被害状況の調査・把握を行うことが目的です。
- ・2016年12月から療養費給付事業を開始しました。対象は、福島県のみならず、原発事故当初、放射性ヨウ素を含むプルームが飛来したとみられる東日本の広い範囲としました。2017年3月まで、原発事故当時4～18歳の81人の青少年に対して療養費の支援を行いました。このうち、10名が肺転移などにより、アイソトープ治療の対象でした（福島県内2人、県外8人）。基金の療養費給付事業を通じて、甲状腺がんの子どもたちおよび家族の実態が明らかになってきています。

#### 【調査研究・研修の経過】

- 2016年1～3月：弁護士および関心を有する市民団体有志と合計4回の準備会合を開催。  
 3～4月：弁護士および関心を有する市民団体有志との会合。相談窓口に加え、経済的支援の必要性があることを踏まえ、「基金」立ち上げについて合意。  
 9月9日：「3・11甲状腺がん子ども基金」設立記者会見  
 9月17日：「3・11甲状腺がん子ども基金」設立シンポジウム（参加者約300人）  
 12月1日：療養費給付事業（手のひらサポート）開始  
 12月26日：第一回給付  
 2017年1月31日：第二回給付、2月28日：第三回給付（2016年12月～2017年3月で81人に対して給付）  
 3月31日：福島県県民健康調査を受けていながら、公表されていない4歳の男児について発表。

#### 【今後の展望など】

- ・「3・11甲状腺がん子ども基金」では、療養費給付の対象者のおかれている状況について、アンケートなどを実施し、発信していきます。甲状腺がん以外の疾患（白血病）についても調査を予定しています（現在、議論中）。FoE Japanでは、各地の甲状腺検診を行っている市民団体へのアンケートなどを検討しています。

会計報告書の概要（金額単位：千円）			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費・滞在費	栃木県北訪問、福島訪問、松本市訪問、準備会への関係者出席旅費、茨城県訪問、近郊交通費など	256	100	0	156
資料費	書籍	3	0	0	3
会議費	会場費	7	7	0	0
印刷費	資料・チラシ等印刷費	87	53	0	34
人件費		1,320	340	0	980
通信費	通信費	9	0	0	9
その他	荷造運賃	16	0	0	16
合 計		1,698	500	0	1,198

#### 参考文献（ウェブサイトや書籍、成果物など）

- ・FoE Japan <http://www.foejapan.org/>
- ・3・11甲状腺がん子ども基金 <http://www.311kikin.org/>

2017年6月18日  
高木基金成果報告会

# 福島原発事故の健康被害に関する 相談窓口および被ばく影響 情報プラットフォーム



満田夏花(みつた・かんな)

# 当初の計画からの変更

当初：甲状腺がん110番＋情報プラットフォーム



関係者との議論を踏まえ、計画変更  
「3・11甲状腺がん子ども基金」の立ち上げ  
準備へ

「基金」として甲状腺がんの子どもたちへの経済的支援および健康影響の把握を行うことに

# やったこと

- 弁護士および関心を有する市民団体有志と合計6回の準備会合を開催。「基金」立ち上げについて合意
- 松本市・菅谷市長を訪問。甲状腺がんの現状をめぐる意見交換。
- 2016年7月：設立総会～菅谷市長講演
- 9月：記者会見、立ち上げシンポジウム
- 療養費給付に向けた準備
- 12月～：療養費給付事業スタート
- 2016年12月26日：第一回給付
- 2017年1月31日：第二回給付、2月28日：第三回給付
- 3月31日：福島県県民健康調査を受けていながら、公表されていない4歳の男児について発表
- 4月アンケート公表

# 3・11甲状腺がん子ども基金

- 目的 東京電力福島第一原子力発電所事故以降、甲状腺がんや甲状腺疾患、その他、被曝影響によると思われる病気に苦しむ子どもなどへの支援と被曝影響に関する健康問題の解決
- 主な事業 (1) 小児甲状腺がん患者へ対する療養費の給付。  
(2) 小児甲状腺がんの増加について理解を深めるキャンペーンやイベントの開催。  
(3) 被曝による健康被害を被った住民に対する相談事業。
- 役員 代表理事: 崎山比早子  
副代表理事: 海渡雄一・武藤類子  
理事: 河合弘之・満田夏花・吉田由布子  
監事: 坂本有希・福田健治
- 事務局 事務局長: 脇ゆうりか  
事務員: 松本佐知子



# 設立シンポジウム



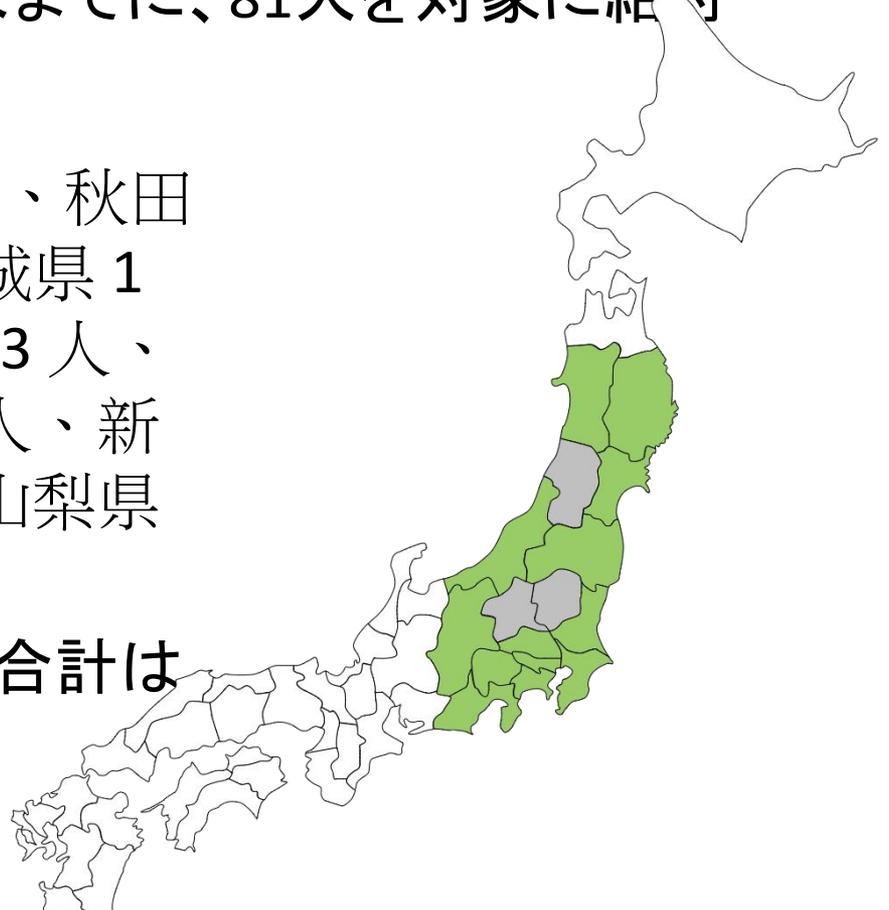
# 療養費給付事業～手のひらサポート



東日本の15の都県における25歳以下の甲状腺がんの患者たちへの療養費給付事業を行った。

# 療養費給付状況

- 2016年12月～2017年3月末までに、81人を対象に給付
- 福島県内58人、県外23人
- 福島県 58 人、岩手県 1 人、秋田県 1 人、宮城県 1 人、茨城県 1 人、千葉県 2 人、埼玉県 3 人、東京都 2 人、神奈川県 3 人、新潟県 1 人、長野県 2 人、山梨県 1 人、静岡県 1 人
- アイソトープ 治療適用者の合計は 10人  
(福島県内2、県外8)



「療養費給付事業「手のひらサポート」第1期のまとめ」(3・11甲状腺がん子ども基金、2017年4月11日)より作成

# 甲状腺がん発見の契機

地域		人数	割合
福島県内	県民健康調査	53 人	91.4%
	県民健康調査以外	5 人	8.6%
福島県外	自治体による健診	1 人	4.3%
	入学・入社時の健診	4 人	17.4%
	自覚症状や独自の受診	18 人	78.3%

3・11 甲状腺がん子ども基金

「療養費給付事業「手のひらサポート」第1期のまとめ」(3・11 甲状腺がん子ども基金、2017年4月11日)

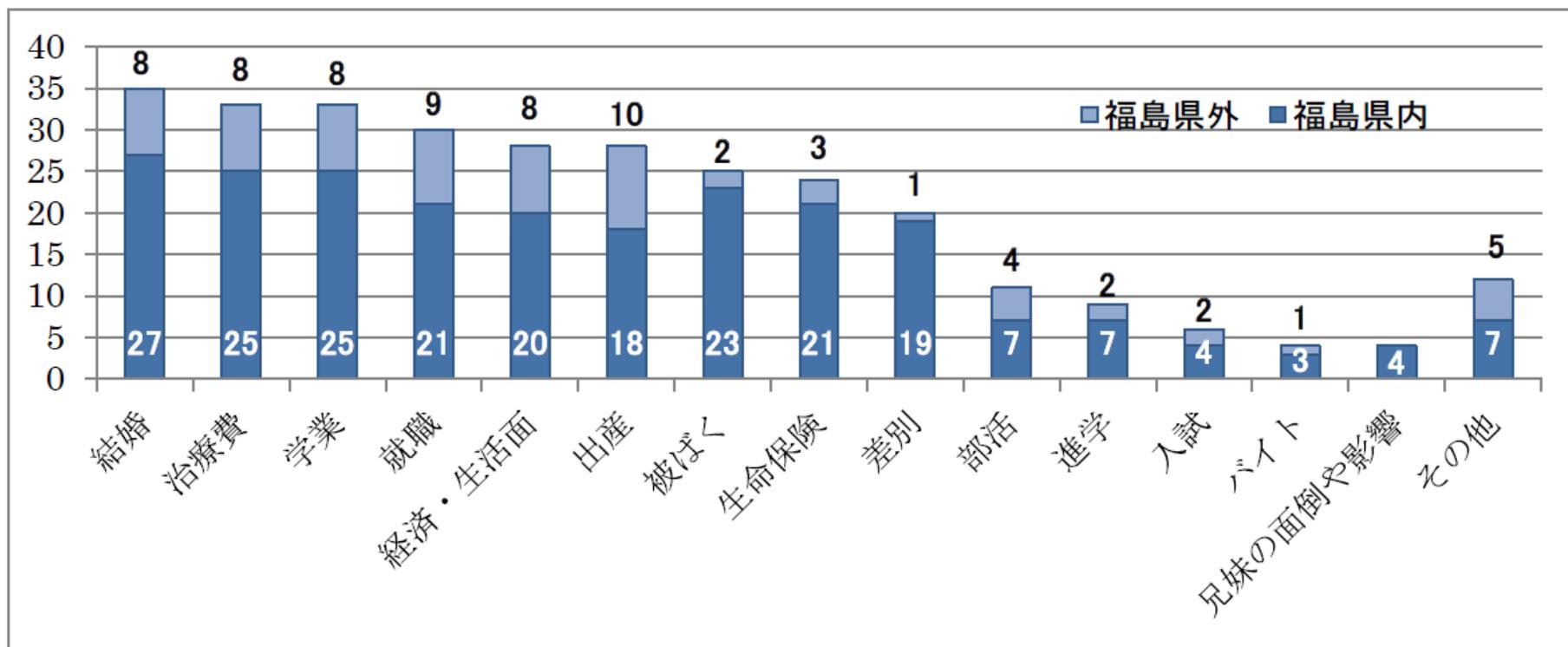
# 療養費給付事業でわかったこと

- 福島県内の症例は、長期間、手術を待ったり、何度も検査をしながら経過観察が続いたりしているケースが目立った。再発例も...
- 福島県外の症例は、自覚症状によって受診して発見が遅くなったと思われる例が多く、腫瘍径が大きかったり、肺転移したりといった例もみられた。
- 甲状腺がんであることを、外部に知られることを強く恐れている家族が多数あった

# 甲状腺がんとなった子どもたちの現状 ～68人のアンケートから～

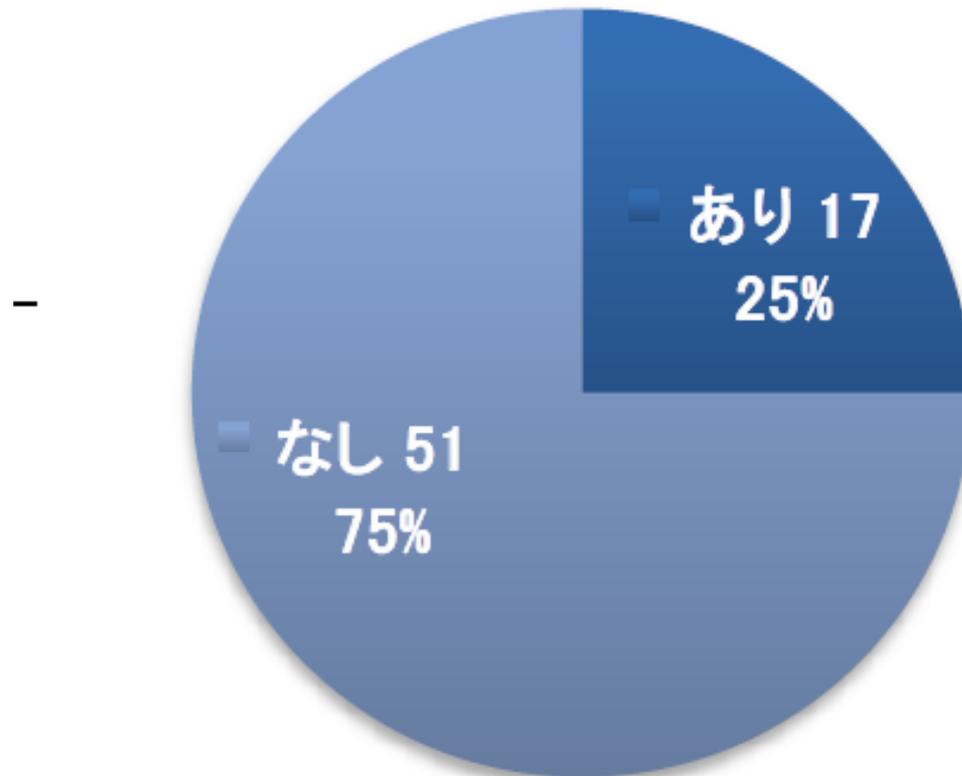
- 【回収期間】2017年1月～4月1日
- 【対象者】「手のひらサポート」受給者72家族  
【回答数】68人(回答率95.4%)
- 【回答者属性】
  - ＜事故時の所在地＞
    - 福島県内:50人(73.5%)
    - 福島県外:18人(26.4%)
  - ＜性別と申請時の年齢＞
    - 男性:30人(44.1%)申請時年齢10～24歳
    - 女性:38人(55.8%)申請時年齢13～24歳

# 甲状腺がんと診断を受けて心配になったり悩んだりしたこと



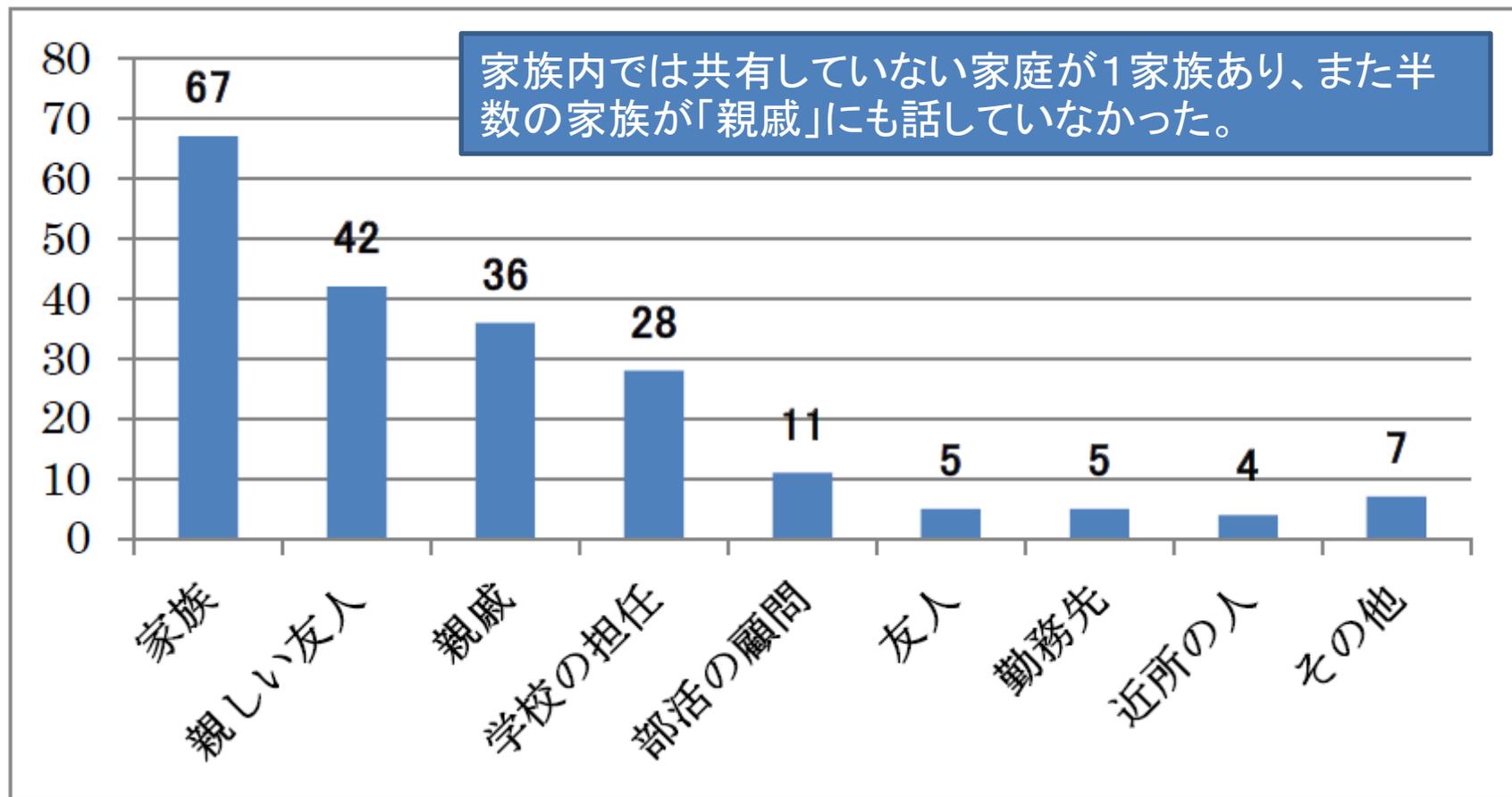
「手のひらサポート給付者アンケート」  
(3・11甲状腺がん子ども基金、2017年4月17日)

# 診断後、予定していた計画（進学・就職など）を変更・断念したことはありますか？



「手のひらサポート給付者アンケート」  
(3・11甲状腺がん子ども基金、2017年4月17日)

# 診断結果はどの範囲の方に知らせていますか？



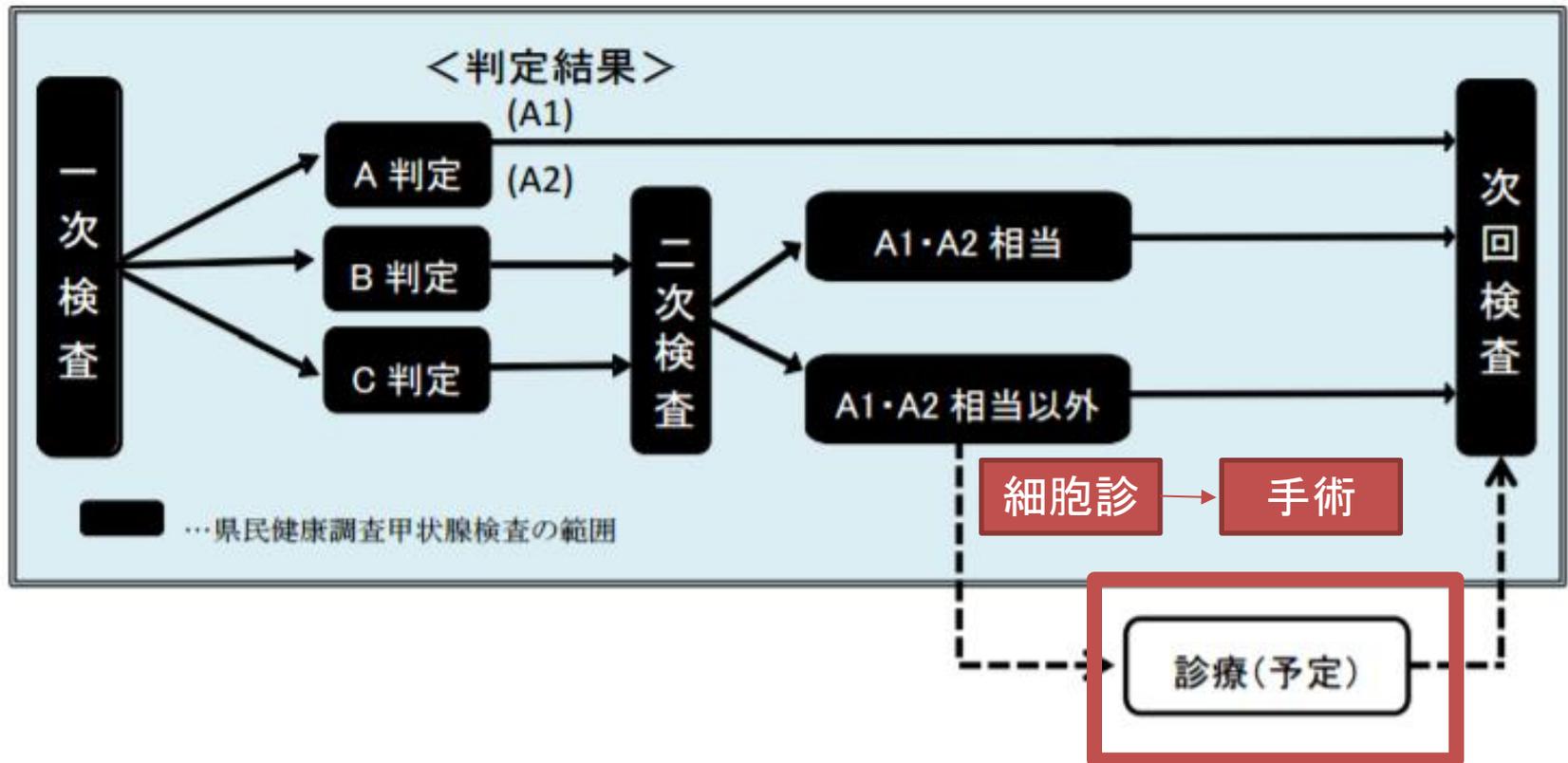
「手のひらサポート給付者アンケート」  
(3・11甲状腺がん子ども基金、2017年4月17日)

# 福島県県民健康調査 甲状腺がんの子どもたちの数

	対象者数、受診者数	甲状腺がん又は疑い	手術後確定	備考
一巡目検査(2011～2013年)	対象：367,649人 受診者300,473人 (受診率81.7%)	116	101	手術例102例、良性1人、乳頭がん100人、低分化がん1人
二巡目検査(2014～2015年)	対象：381,256人、 受診者270,511人 (受診率71.0%)	71	49	がんまたは疑いの71人のうち、前回A判定は65人。
三巡目検査(2016年～)	対象：336,616人 受診者数：120596人 (35.8%)	4	2	
合計		191	152	

**191人以外にも未公表の甲状腺がん  
事故当時4歳も**

# 隠されていた甲状腺がん



経過観察となった子どもたち2500人余りは、県民健康調査外とされ、がんとなっても集計に含まれていない